

まちの話題あれこれ



一人でも多く家族のもとへ ～釜石海上保安部による潜水捜索～

12月26日(水)、大槌湾の大槌川河口付近で、東日本大震災の行方不明者の潜水捜索が行われました。海上では、風と雪が吹き付け、気温も氷点下近くまで冷え込む中、巡視船「くりこま」の潜水士5名は行方不明者の手がかりを探して潜水を繰り返しました。

捜索に尽力する隊員に対して、町長は「厳しい捜索を続けて頂き大変ありがたく思います。」と挨拶しました。

また、潜水士の阿部琢磨さんは「気温は低く、風も強いが、どんな状況でも対応できるように日々訓練している。1人でも多く遺族のもとに帰りたい。」力強く応えてくれました。

この日の捜索では、クマのぬいぐるみを回収。大槌町役場に保管されています。



火災の無い町を目指して

～平成25年大槌町消防団防火祈願祭～

1月6日(日)、小槌神社境内で平成25年度大槌町消防団防火祈願祭が開催されました。震災後は、出初め式を行わず防火祈願祭のみ開催。大槌消防団幹部や大槌町婦人消防協力隊など関係者約80人が参加しました。

大槌消防団長の煙山佳成さんは「東日本大震災で殉職した消防団員のことを常に思い、技能を強化し有事に備えたい。」と決意を新たにしました。



より安心な町を目指して

～大規模災害発生時における支援協定～

1月22日(火)、町は岩手県生活衛生同業組合と釜石地区生活衛生同業組合連絡協議会との間で「大規模災害発生時における支援協定」を締結しました。協定締結を受けて町長は「災害時に、住民の生活に密着した支援を受けられることは、大変ありがたい。」と感謝の言葉を述べました。

この協定により、大槌町で大規模な災害が発生した場合、避難場所の提供や炊き出し等の支援を受けることができます。



長寿を祝福して

～福田トシさん、100回目の誕生日～

12月20日(木)、金沢に住む福田トシさんが100回目の誕生日を迎えました。この日は療養中の病院から花束、町を代表して佐々木副町長から町長直筆の色紙と敬老祝金が贈呈されました。

福田トシさん大正元年(1912年)生まれ。お孫さんにも恵まれ、40人近くの孫、ひ孫、夜叉孫さんが大槌町内外で生活しています。ご家族に話を聞くと「よく体を動かしていました。散歩もしたし、仲間とゲートボールもしていました。また、食べ物に好き嫌いがなく、何でもよく食べました。」とトシさんの元気と長生きの秘訣を教えてくださいました。また、「100歳までご苦労様です。これからも長生きしてね。」とトシさんメッセージを送りました。



寒さに怯まず、海へ ～根浜海岸で大寒みそぎ～

根浜海岸に男たちの威勢の良い声が響きました。1月20日(日)、1年の中で最も寒いとされる大寒の日に無病息災を願い下帯姿の男たちが海に入る「大寒みそぎ」が行われました。

大寒みそぎは大槌町稲荷神社が30年前から浪板海岸で行ってきましたが、震災の影響で根浜海岸に場所を移して開催。今年は9人が参加し、かけ声とともに冷たい海の中に入っていました。

昨年から参加している佐々木良衛さんは、「父がまだ行方不明なので挨拶と鎮魂の思いで海に入った。身が引き締まる思いだ。」と話してくれました。

